



# 新年のご挨拶

群馬県中小企業団体中央会

会長 吉田 勝彦



明けましておめでとうございます。令和5年の年頭に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

長きにわたる新型コロナとの闘いは、相次ぐ感染拡大の波に翻弄されながらも、ウィズコロナの定着により社会経済活動の正常化に向けた道筋も見え始めつつあります。その一方で、ロシアのウクライナ侵略に端を発した国際情勢の悪化により、折からの資源・材料の高騰に一層の拍車が掛かり、為替市場では数十年ぶりの円安水準を記録するなど、日本経済を取り巻く環境は以前にも増して厳しいものとなっております。

こうした状況の下、国では、新型コロナ対応における行動制限を段階的に緩和する一方、エネルギー高騰対策として「燃料油価格激変緩和措置」を発動するとともに、物価高騰対策の更なる拡充に向け令和4年度第二次補正予算を成立させたところです。

また、群馬県においても、新型コロナの感染拡大リスクを適切に管理しながら経済を回す姿勢を強く掲げ、愛郷ぐんまプロジェクト等を継続実施するとともに、物価高騰対策として「新ぐんまチャレンジ支援金」の創設、コロナ後の社会における新たなビジネス創出に向けた「ぐんま未来イノベーションLAB」の立ち上げなど、様々な施策が講じられてきました。

私ども産業界も、これら国・県の経済対策の成果に期待しているところです。効果的かつ着実な執行をお願い申し上げます。

しかしながら、我々中小企業・小規模事業者においては、価格転嫁が思うように進まず事業収益の確保に困難を極める中、コロナ対策融資の償還

期を迎え、さらには国が掲げる「構造的な賃上げ」の中心的役割も期待されるなど、新たな課題に次々と直面し、過酷な経営環境に晒されております。

この難局を乗り切るには、取引慣行や社会制度を巡る様々なしわ寄せが中小企業のみならず現状を改めるとともに、生産性向上や事業再構築による収益基盤の一段の強靱化が急務であり、中小企業組合をはじめとした業界団体が主導して、その改善に向けた努力を続け、実績を積み重ねていくことが重要であると考えます。

本会といたしましても、中小企業連携組織の専門支援機関として、中小企業が抱える諸課題の解決に向けた伴走型支援の強化はもちろん、DXやGXへの対応など付加価値向上に資する取組に対しても重点的かつ能動的な支援を展開いたします。とりわけ、「パートナーシップ構築宣言」をはじめとする下請取引の適正化に関しては、目下の最重要課題として位置付け、地域中小企業における現場の声をしっかりと関係各所に届けて参ります。

卯年となる本年は、4月に「G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合」の開催が予定されるなど、デジタル先進県の実現に向け一層弾みがつき、本県経済の発展に向け期待が高まる明るい話題も控えております。今年こそは安寧の日々が再来し、皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう心より祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

令和5年元旦



# 新年のご挨拶

群馬県知事

山本 一太



明けまして、おめでとうございます。

群馬県中小企業団体中央会の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。併せて、新型コロナウイルス感染症への対応にご尽力いただいている全ての皆様に、深く感謝申し上げます。

前年に引き続き、昨年も「新型コロナの抑え込み」と「経済の回復」に全力を注いだ1年でした。同時に、アフターコロナ時代を見据え、新たな富やイノベーションを生み出す政策にも、果敢に取り組みました。

日本の温泉文化をユネスコの無形文化遺産に登録する運動に関しては、全国有数の温泉王国である群馬県が中核となって、与党の国会議員連盟や、知事の会を発足させました。遺産登録に向けた強力な推進体制を整えることが出来たと考えています。

加えて、群馬県が、他県より一歩進んだ「DXの推進」や「災害レジリエンスの強化」を打ち出し、次々と政策を実行していることで、本県存在感や評価は、大きく高まったと感じています。実際、2つの大手企業が群馬県への本社機能の移転を決めました。知事として、こうした動きをとっても力強く感じています。

4月には、Gメッセ群馬において、初めて誘致に成功した重要な国際会議「G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合」が開催される予定です。群馬県が目指す「デジタル技術による地域課題解決」の推進に大きく弾みをつけると共に、群馬の魅力を世界に向けてアピールする絶好の機会にしたいと考えています。

本年も、群馬県が未来ビジョンとして掲げた「誰一人取り残さず、誰もが幸福を実感できる自立分散型の社会の実現」を目指し、知事である私が自ら先頭に立ち、邁進していく決意です。

皆様には、中小企業の経営基盤強化や新型コロナウイルス感染症により多様化する経営課題への対応等を通じて、県内企業の振興発展のために絶えずご尽力をいただいております。

県としましても、県内企業の活力が最大限発揮されるよう、皆様としっかり連携し、本県経済のさらなる活性化に取り組んでまいりますので、引き続き県政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとって、実り多き素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

令和5年1月1日





# 年頭に当たって

全国中小企業団体中央会

会長 森 洋



明けましておめでとうございます。令和5年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、コロナの感染収束が見えない中、ロシアのウクライナ侵略等によるエネルギー価格や食料品等の高騰、急激な円安、豪雨・台風等の自然災害による断水・停電等の被害、デジタル分野をはじめ深刻化する人材不足、事業承継問題等により、中小・小規模事業者を取り巻く経営環境は、危機的な状況が続きました。特に、原材料価格の上昇を取引価格に十分に転嫁できないため、事業収益面で重大な悪影響を被っています。

一方、ウィズコロナに向けた社会経済活動の正常化が着実に進みつつありますが、今冬は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が懸念されています。令和4年度補正予算で措置された「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」の早期かつ着実な実行に大きな期待を寄せているところであり、本会では施策の広報と迅速な執行に努めて参ります。

この難局を乗り越えるためには、個社ごとの対応はもちろん、中小・小規模事業者のインフラ、プラットフォームとしての役割を担っている中小企業組合や企業間の連携ネットワークを活かした戦略的な取組みが重要になります。

昨年11月10日に長崎県の出島メッセ長崎にて開催した第74回中小企業団体全国大会では、全国各地から中小企業団体の関係者約2,000名が参集し、関係省庁・関係機関をはじめ多数のご来賓をお迎えし、中小・小規模事業者等に対する、①経営強靱化・成長促進支援等の拡充、②実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進、

③積極的な事業活動を支える環境整備の実現に向けて、組合関係者の皆様と共に取り組んでいくことを決議しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の両立、デジタル化の実装とグリーン化への積極的な取組み、ものづくり補助金を活用した生産性向上と事業再構築への対応、災害対策、事業承継、事業再生、スタートアップ、円安を活用した海外展開などの最重要課題については、会員の皆様との連携を一層強化し、取り組んでいきます。

経営者が本質的な経営課題に自ら気づき、自己変革力を促進していくため、経営力再構築のための伴走支援が行われています。48の中央会が一丸となってこの伴走型支援を展開し、組合の組織力の強化と組合員の経営改善に向けて尽力して参ります。

結びに、本年が中小企業組合と中小・小規模事業者の皆様にとりまして、安心して事業活動を行う環境が整い、卯の年らしく新たな時代に跳ね上がる1年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年元旦





# 新年のご挨拶

株式会社商工組合中央金庫 前橋支店

支店長 藤田 識雄



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による行動制限の影響が徐々に和らぐ一方で、急激に進行した円安やウクライナ紛争等に伴う原材料価格の高騰等、国内外の経済の先行きに不透明感が大きく高まりました。さらに、中小企業の過剰債務解消に加え、政府が進めるカーボンニュートラルへの対応、自然災害に備えた事業継続計画の策定など、中小企業の経営課題は、従前にも増して多様化してきています。

このように社会情勢や中小企業の経営課題が大きく変化する中、私ども商工中金は新たな時代に相応しい組織風土・企業文化を形成し、改めて商工中金の存在意義や大切にすべき考え方を共有するために、全役職員が参画のうえ、昨年新たな企業理念(パーパス)「企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。」を制定いたしました。そして、このパーパスの実現に向け、中長期的に中小企業が直面する経営課題を踏まえ、2022年度から2024年度までの3年間を計画期間とする中期経営計画を策定いたしました。商工中金経営改革プログラムで築いたビジネスモデルを強化し、より踏み込んだ企業支援に取り組んでまいります。

具体的には、新たな中期経営計画の主要戦略として「サービスのシフト」、「差別化分野の確立」、「企業変革」を設定し、課題解決に向けて取り組むお客さまに対して様々な経営リソースを提供することを通じて、総合的な課題解決力を発揮し、変化につよい企業経営をお客さまとともに実現し

てまいります。

こうしたビジネスモデルを支える屋台骨として、引き続きコンプライアンスの徹底や内部管理態勢の強化に取り組むとともに、職員の能力を最大限に発揮するため、ダイバーシティの推進やインクルージョンを徹底してまいります。

「中小企業による、中小企業のための金融機関」である商工中金にとって、中小企業組合並びにその組合員の皆さまの成長こそが私たちの成長になります。皆さまから信頼され、支持され、これまで以上にお役に立てるよう、役職員一同、全力で努力を続けてまいります。

本年も国内外の社会・経済情勢が大きく変化する年となることが予想されます。中小企業の皆さまにとってこうした変化を好機と捉え、様々なことに果敢に挑戦する絶好の機会でもあり、その機会を活かすためにも、中小企業組合を通じた中小企業同士の連携・協業が重要となります。私ども商工中金は群馬県中小企業団体中央会様や中小企業組合の皆さまと積極的に情報交換・連携を図りながら、群馬県の社会・経済の発展に微力ながら尽くしてまいりますので、今後とも格別のご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が中小企業組合並びにその組合員の皆さまにとりまして、新たな成長への飛躍となる一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年元旦